

安全、確実な避難ができる保証はまだない

原子力災害避難計画の評価めぐり論戦

9月定例議会の一般質問で、私は原子力災害に備えた屋内退避・避難計画の評価や新潟県による福島第一原発事故に関する3つの検証の今後について中川市長に質問しました。以下はその大要です。

【橋爪】総括質疑で、市長は「災害現場での市民の避難行動が円滑かつ安全に行われることが担保される」「市民の確実な避難が一層進められる計画になった」と評価しているが、その根拠を聞きたい。

【中川市長】この度の改定で、原子力災害に対する防護措置と、災害時に取り得る市民の一連の避難行動に実効性が備わったとの認識から、それらを改定の成果としてのべた。複合災害時における防護措置や避難対策が未整理など課題はある。実効性の高い計画に改定を重ねていくことが肝要だ。

【橋爪】屋内退避、避難計画については、まだまだ改善していかなければならないという方向性を示されたが、それならば、安全が担保されたとか、確実な避難が前進したという評価はおかしい。確かに安定ヨウ素剤配布などで前進があったことは事実だが、でも本当に安心して避難できる、文字どおり実効性のあるものにはなっていない。県の検証の避難委員会報告書では、安全な避難方法等に関する論点整理として、12項目450の論点があげられた。このう

ちどれくらい解決済みか。

【市川防災危機管理部長】その中ですでに県が対応したものは185、対応中のものが53と承知している。

【橋爪】避難委員会報告書には「外部被ばく内部被ばくを避けるという趣旨が理解され、かつ、情報提供が保障なされない限りは、屋内退避をとることは困難」と書いてある。行政がいくら屋内退避をと言っても、本当に被ばくを避けられるという確信を持ってないかぎり、(屋内退避でなく)遠くへ避難する」となる。

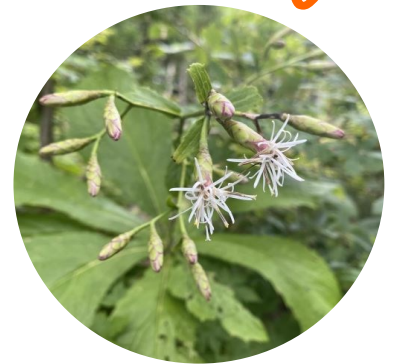
3つの検証委報告書は宝の山

【橋爪】県の3つの検証については、すでに県が専門家抜きで総括報告書をまとめた。一方、専門家も入った市民検証委員会が立ちあげられ、年内にも総括文書をまとめるという。どう見ているか。

【市長】市民検証委員会の動きは「3つの検証」の総括に対する様々な県民意見の現れの一つではないか。県の総括文書については、私としては見解を述べる立場じゃない。

【橋爪】新潟国際情報大学の佐々木寛教授は「3つの検証の各委員会報告書は宝の山だ。すでに柏崎刈羽原発のことを念頭に入れて、検証をまとめている」と言われた。3つの委員会で検証したことで、これはもう駄目だったら駄目だという結論を出せばいい。そういうまとめを県に働きかけてもらいたい。

【市長】今後は市町村研究会に意見を伝えながら、県には、本当に東京電力が対応できるのか問い合わせなければならぬし、説明をいただかなければいけない。



【クルマバグマ】(再掲)キク科の多年草。漢字で、「車葉白熊」と書きます。初めて出合った時、花の形が独特で、線香花火のようだと思いました。草丈は50~80センチ。葉は車状についています。花期は8~11月で、けっこう遅くまで咲きます。花言葉は「清楚な美しさ」。写真は9月26日、吉川区にて撮影しました。



原発反対集会に1000人

原発再稼働の動きが強まっているなかで24日、なくそ原発柏崎大集会が行われました。

集会では、元京都大原子炉実験助教の小出裕章さんが講演、広島原爆投下にさかのぼり、ウランやプルトニウムの関係等についてわかりやすく語り、原発の危険性を浮き彫りにしました。そして原発が無くても大丈夫だということも明らかにしました。

新潟国際情報大学教授の佐々木寛さんは、新潟県の動きについて報告、「3つの検証委員会の報告書は県民の宝だ。委員会では原発の是非を徹底的に議論してきた」とのべ、花角知事がそれらの成果をしっかり活かそうとしない姿勢を批判しました。

集会ではウイズコーションというグループが素敵なフォークソングを披露してくれました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2128 2023.10.1

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七七五回

産みたての卵

焼いて食べる。ゆでて食べる。ご飯にかけて食べる。卵の食べ方として浮かぶのはそんなところでしょうか。

でも、もう一つあることを忘れていませんか。「食べる」という大きな「くくり」のなかに入ると思うのですが、「飲む」というやり方です。

先週の木曜日、Kさん宅を訪ねたら、玄関わきの蛇口でさっと何かを洗い、「これ、食べてみてくんない」と言われまして。見たら、小さなニワトリの卵です。それも産みたての卵でした。

「ありがとうございます」と言っていたのですが、ちょうど市役所に向かう途中でしたし、家に戻る時間ありません。車の中やカバンの中でうっかりつぶそうものなら後の始末がたいへんです。となれば、「これは、もう飲むしかないな」と思いました。

それで、車を木陰のところに止めて、ティッシュを取り出し、それで卵を包むようにしながら、車の硬いところで恐る恐るコンコンとやりました。割れ目が入ったところで、指を使って、割れ目を広げ、そこに口をつけて、チュウチュウ吸いました。

飲んだ瞬間、「あたたかい」と思いました。Kさんが卵の表面の汚れを落とすためにサッと水洗いしたのですが、それでも中は温かいままだったのです。これには感動しました。

ニワトリの卵をこんな風にしていただいたのは何十年ぶりでしょうか。私の記憶では、わが家が尾神岳のふもとにあったころ、それもまだ、私が子どもだった頃かと思えます。産みたての卵に穴をあけ、グイッと飲んだときは美味しかったですね。

数十年ぶりに卵を飲んだ私は、インターネットで、いただいた卵の写真と共に全国に発信しました。すると、「産みたて卵、久しく触って無いなあ」とか「生卵を飲み

ますか。素晴らしいです」などのコメントが次々と寄せられました。

それらのなかには、「子どもの頃は、鶏小屋に行くのが楽しみでした。昔のことを思い出しました」というのもありました。もちろん、私も思い出しました。子どもの頃、わが家でもニワトリを数羽飼っていました。言ってみてもなく、目的は自分の家で使う卵を得るためです。春になれば、農協からまだ薄黄色い「ヒヨコ」（雛）が届けられました。段ボール箱に入ったヒヨコたちはかわいかったですね。

ヒヨコたちをどう育てかは記憶していませんが、場所は家の前にあった小屋の一角だったと思います。そこで数か月飼うと大きくなり、卵を産むようになります。

そのニワトリたちに大根などの葉を刻んでエサを作り、与える仕事は私や弟たちに与えられました。そして産んだ卵をとってくるのも私たちの仕事でした。

ニワトリを飼っていた一角は板と金網で囲ってありました。これはニワトリが逃げ行かないようにするだけではなく、イタチやヘビなどの外敵からニワトリを守るためでした。特に注意したのはヘビです。ヘビはちょっとした隙（すき）をついて囲いの中に侵入し、雛（ひな）や卵を呑みこむことがあります。卵を呑みこんだために胴の一部が大きくなって囲いから出られなくなっているヘビを棒で外に放り出したこともあります。

卵をもらった二日後、Kさんと会う機会があったので、お礼を言い、「卵、温かかったね」と言うのと、「そりゃ、産みたてだもん」と言われました。Kさんによると、都会から田舎体験に来る子どもたちに見せたくて飼いはじめたことですが、私が飲んだ卵は、今年購入したヒヨコが大きくなって産み始めたばかりのものだったそうです。最高の卵をいただきました。

卵をもらった二日後、Kさんと会う機会があったので、お礼を言い、「卵、温かかったね」と言うのと、「そりゃ、産みたてだもん」と言われました。Kさんによると、都会から田舎体験に来る子どもたちに見せたくて飼いはじめたことですが、私が飲んだ卵は、今年購入したヒヨコが大きくなって産み始めたばかりのものだったそうです。最高の卵をいただきました。

4年ぶりのよしかわ福祉まつり、盛り上がる

よしかわ福祉まつりが9月23日、4年ぶりに開催されました。会場はほほ笑よしかわの里駐車場です。地元の福祉団体のみなさん、家族の皆さんを中心に大勢集まりました。

もいしました。百華踊乱よしかわのみなさんが「よさこい」を披露しているときには、福祉グループのみなさんの中でも踊る人がいました。とても楽しいまつりとなりました。

イベントは頸北太鼓の寄席太鼓でオープン、その後、ダンスや太鼓、オカリナ演奏などを楽しみました。「ふれんどり～ライフよしかわ」のみなさんがダンスをしていると一緒に踊りだす子どもたち



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのことです。

	9月20日(水)	9月27日(水)
上越南消防署	0.043	0.047
上越北消防署	0.047	0.043
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.063	0.070
東頸消防署	0.047	0.050
名立分遣所	0.050	0.053
高士分遣所	0.053	0.053